

まいだ晴彦の **復活257号**
熱い心でHot! まいちゃん通信



自助を強調し、政府の役割である公助の意味をわざと曲解して伝える菅氏

公助があつての自助・共助 憲法を無視するな!

菅新総理大臣の「自助共助公助」論に反論する

菅新総理大臣が掲げる、「自助共助公助」論、みなさんは納得いきますか？私は納得いきません!!

なぜなら、憲法で保障した**社会権を否定**する主張だからです。自由権と平等権だけでは社会は壊れる、だから人類は社会権を獲得。そして日本国憲法もそれを取り入れているのに、その事実を国民に気付かせないようにする行為だと思うからです。

私が高校時代に使った1976年発行の講談社版「政治・経済」の教科書を見てください。そこにはどう書かれているか。

なることに気が付いた人々が、資本主義に規制をかけようと闘つて得たのが**社会権**というわけだ。そのことを私たちは「生活の

社会権の保障と展望

自由権的人権は、国家権力からの自由の獲得をその目的とする。しかし、自由権が栄えた結果、19世紀末から20世紀にいたり、多数の貧者・失業者が生まれ、そのため、国家の新しい任務は、資本主義社会における経済的自由をある程度制限し、これらの人々の生活を積極的に保障すること、すなわち、社会権の保障に向けられた。日本国憲法は詳細な自由権的人権を保障したが、これに加えて、福祉国家の人権として、1919年のワイマール憲法や第二次大戦後のフランス・西ドイツなどの先進諸外国の憲法とともに、新しく**社会権的人権**をも保障した。

1976年発行の講談社版高校の「政治・経済」の教科書より

みなさんは 貧しくなる自由も保障されたいですか!?

つまり、資本主義社会のなかでは、「経済的自由」のままにしておいたのでは、資本主義社会は人の命まで奪ってしまう、「貧しくなる自由、命を失う自由」まで与えてしまったことに

糧からも自由」つまり社会権を保障しなければ「貧しくなる自由」まである、「その不安定さを自覚するように」と教わったんです。みなさんは、貧しくなる自由まで保障されたいですか？

だから、社会権は貧乏だった家庭にとって希望の条文だった。誰もが、家庭環境は厳しくても

大学進学だって、病気になったときだって社会が保障してくれる、社会権が実質的な平等を保障してくれると感じた。

ところが今はどうだろう？

「自助自立」を強調されて、あたかも菅新総理が言うように、公が手助けするのは、自分で努力した後だと思い込まされようとしている。

コロナは、それが違うということを感じかせてくれている。いくら努力をしようとしても、一瞬にして仕事を奪われる、仕事をしたくても自粛しろと言われる生活の糧を失う、住まいを失う、これ努力が足りないんですか! そうじゃないでしょ!なのに、あたかも努力、自助が足りないから今の境遇があるかのよう思いこませる、それもコロナ禍で困っているこの時期に言う、もっとも許せない行為だ。そんな総理などいらない。

断じて言う、公助が先だと。総理は明らかに国民を騙そうとしている。そうでないならば、社会科のテストでは明らかに落第だと思うのですが。

私が間違っているのか、教える内容が変わってしまったのか、さあ、今の教科書ではどんなふう書かれているんですか、学生さん、教えてください?